

令和6年度 地域情報化アドバイザー制度活用報告書

地域情報化アドバイザー制度の活用実績について、下記のとおり報告します。

記

1. 申請団体情報

1-1. 申請団体

団体名	沼津市			代表者名	頼重 秀一
担当者部署(属性)	情シス担当	担当者部署名	政策推進部ICT推進課	連絡先電話番号	055-934-2544
担当者役職	主任	担当者氏名	田川 太悠	連絡先E-mail	
住所	410-8601 静岡県沼津市御幸町				

1-2. 推薦団体（「区分」が「協議会」または「NPO・商工会・大学等」の場合のみ入力）

団体名		連絡先部署	
担当者氏名		連絡先電話番号	
		連絡先E-mail	

1-3. 支援を求める内容

支援方法	具体的課題への支援	事業名	沼津市DX推進事業アドバイザー会議
概要	沼津市DX推進事業（市民の利便性向上と業務の効率化）に係る助言		
支援を求める分野	計画策定支援 人材（DXに関する知識習得・研修・育成）		

2. 地域情報化アドバイザー派遣実績

2-1. 対応日・時間	期日・支援内容の変更あり	受付番号	変更後の派遣日	変更後に実施した支援内容	実地/オンライン
	無				
	派遣日予定日（申請書より）	支援内容（申請書より）	開始時刻	終了時刻	内休憩時間（分）
	令和6年7月29日	支援・助産&フォローアップ(オンライン)	13時00分	14時35分	
				活動時間（分）	95
2-2. 派遣場所	会場名	オンライン	最寄駅	オンライン	
	所在地	オンライン	最寄駅からの交通手段	オンライン	

3. 派遣アドバイザーに対する評価と要望

支援を受けたアドバイザーに対する評価をお願いします。

アドバイザー	森本 浩之
評価	大変よい
上記評価の理由（どのようなところがよかったか等詳細に）	本市で今年度行う事業と今後展開していく予定の事業について、総合的なアドバイスをいただいた。それぞれの事業を進めて行く中で、意識しておくべき部分や、それぞれの取組の連携を考慮したスケジュール作成など、見落としがちな点についてご指摘いただき、実際に進めて行く具体的な手順を想像することができたと感じた。 また、1回目には実際に庁舎内を視察いただくことで、主に窓口において改善すべき点も指摘していただいた。外部の方の目線で見えていただくことで、職員にとっては当たり前と感じていたことでも変えていくことで窓口の利便性を向上させることができるということに気付くことができた。2回目には1回目のアドバイスを元に、方針の見直しを行ったものに対する更なる助言をいただいたほか、追加質問についての回答もいただいた。
アドバイザーへの要望事項	本市のDX推進事業について、無駄なく効率的な取組を行っていくため、今後もご支援いただければと思います。

4. 依頼内容及び支援を受けたことによる成果・効果

4-1. 支援を受けた対象者	属性（職員、一般、企業等）について【自由記述】		合計人数	4人
	属性	自治体職員	住民	企業・団体
人数	4	0	0	0

4-2. 支援を受けるにあたって目指した成果と実勢に支援を受けたことで改善又は解決した成果・効果

事業の課題・問題点（具体的にご記入下さい）	本市では、本年度からキャッシュレス決済の導入等による窓口サービスの向上、職員用ビジネスチャットの利用や庁内の各種申請等の手続き業務の効率化を実施・検討しています。それらの取組の今後の展開や、次年度以降に実施を検討している他の取組との連携をどのように考えていけば良いのか、専門的な立場から他自治体の事例を含んだ助言をいただくことで、本市に合った形でより効果的な事業展開をしていけたらと考えています。
支援により目指す成果（具体的にご記入下さい）	市民向けのサービス向上のための取組と、職員向けの内部的な取組を、バランスよく、なおかつ適切に連携した形での実施方法を検討し、確立して行きたいと考えている。

<p>アドバイザーに支援を受けた内容 (具体的に記入下さい)</p>	<p>本市において、本年度及び次年度以降実施を検討している事業内容について、前回いただいたアドバイスをもとに、方針の見直しを行った部分や追加の質問に対する回答をいただいた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・DXを進めて行く上で大切なのは、具体的な事例を職員に示すこと。システム等を導入しても普及しないのは、どうやって使っていくかわからないということが一因となっている。 ・キャッシュレス決済は、今後の展開を考える上で、利用者の声を聞くことは必須である。また、利用しなかった人が、何故使わなかったのかを聞くことも必要。 ・生成AIの画像生成については、端末のスペックの問題、生成した画像の著作権・肖像権問題を考慮する必要がある。 ・RPAについては、システム間連携ができるようになるまでは活用できるものであり、こちらも事例を紹介していくことが必要である。 ・シンククライアントシステムについては、国が三層分離をやめる方向に進んでいることもあるので、焦ってLGWAN環境の接続にしない方が良いのでは。 ・LoGoチャットの活用はしていくべきである。特に「やっつけはいけないこと」を明確にしていく。端末のあり方で用途が変わってくるので、それに合わせたルール作りが必要。 ・窓口の発券機については、担当課の考えにもよるが、手作りでも構わないので、来庁者に不安を抱かせないように配慮をしていくこと。 ・電子申請については、公式LINE上に集中させるならばリンクを貼るだけ。ぴったりサービスの活用もしていくべきである。 ・ノーコード、ローコードツールは、10年20年と使っていける可能性はある。ただし専門的なフォローは必要で、作りっぱなしにさせないことが必要。 ・RPAなどの先端技術について研修を行う際は、デジタルに強くなっていいので、業務に詳しい職員に受けさせるのが効果的である。 ・DX計画策定の委託については、標準化の関係もありタイミングが悪いと思われる。他自治体でもかなりしっかりした計画が公表されているので、それらを参考にしてみてもいい。また、来年度の策定が必須でなければ、1年間見送ることも視野に入れてみてはどうか。 			
<p>支援を受け改善又は解決された内容 (具体的に記入下さい)</p>	<p>前回伺った話から更に発展した内容でアドバイスいただけた。DX推進の細部の進め方について理解することができたと感じる。</p>			
<p>具体的な成果物</p>	<p>最も当てはまるものをリストより選択下さい。</p>	<p>⑥途中段階であり、具体的な成果物はできていない事業全体についての助言のため、具体的な成果物はない。</p>		
<p>改善又は解決されなかった内容 持ち越しとなった内容 (具体的に記入ください) アンケートの内容と分析結果</p>	<p>特になし</p> <p>講演・セミナー又は個別の事業支援の実施にあたりアンケートを行った場合は、その内容と分析結果について記入下さい。(EXCELやPDFでの分析結果を添付されても結構です。) アンケートを行わなかった場合はその理由を記入下さい。</p> <p>参加者が少人数かつ全て担当部署の職員であるため。</p>			
<p>4-3. 今後の計画</p>	<p>最も当てはまるものをリストより選択下さい</p>	<p>②次年度に予算化を図り推進する</p> <p>今回助言をいただいた内容を今年度及び次年度以降実施(予定)の事業に取り入れていくことで、無駄のない事業展開を目指す。また、既に実施済みのものの活用や、新規事業との連携も考慮したスケジュールを作成し進めて行く。</p>		
<p>4-4. 事業の最終的な目指す姿</p>	<p>デジタル化による市民サービスの更なる向上と、庁内業務の効率化を密に連携して進めて行くことで、来る人口減少に備えた、効率的で誰も取り残されることのない社会を目指していく。</p>			
<p>5. 報告書に関しての地域情報化アドバイザーホームページ「派遣事例」への掲載許可</p> <table border="1" data-bbox="137 1406 759 1438"> <tr> <td>掲載許可</td> <td><input type="radio"/>掲載可</td> </tr> </table> <p style="text-align: right;">https://www.r-ict-advisor.jp/cases-case-good-practices/past_year_all_houkoku/</p>			掲載許可	<input type="radio"/> 掲載可
掲載許可	<input type="radio"/> 掲載可			
<p style="text-align: center; color: red;">なお<その他>を選択した場合、具体的な記入が必要となりますのでご注意ください</p>				
<p>6. 地域情報化アドバイザー支援の様子 今回の派遣における地域情報化アドバイザーの支援の様子がわかる「写真(JPEG)」を次ページに数枚程度貼り付けて下さい。</p>				

具体的に記入下さい
支援を受けた事業が成
(自治体側に内在してい

✓

✓

